

TextAlive Groove 利用規約

TextAlive Groove 利用規約

本 TextAlive Groove 利用規約（以下「本規約」といいます）は、国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 メディアインタラクション研究グループ（承継先を含み、以下「当グループ」といいます）が研究開発および実証実験を進めている「TextAlive Groove」において提供されるサービス（本イベント参加者及び本イベントで生成されたモーショndata（Piece）を使用したサービスを含みます）を、ユーザ（本イベント参加者及び後述する MV 制作者を含みます）が利用するにあたっての諸条件について規定します。

当グループがウェブサイト上で随時掲示する注意事項その他の定めは、本規約の一部を構成するものとし、それらは予告なく変更されることがあります。ユーザは常に最新の本規約の情報を確認するものとし、本サービスを利用することによって、ユーザは本規約に拘束されることに同意したものとみなされます。

【提供目的】

1. 本サービスは、当グループにおける研究開発及び実証実験の一環として試験提供されており、本サービスの利用状況を研究し、当グループによる解析結果及びプログラミング環境技術に基づくユーザインタフェースを利用したコンテンツやサービスの開発を促すことで、学術研究を進展させ、産業界に貢献する技術を創出することを目的として提供されています。
2. ユーザは、前項の目的を理解し、前項の目的に反しない範囲において、本規約中の定めに従い、本サービスを利用するものとします。

【ユーザ】

1. ユーザは、当グループと拘束力のある合意を締結することに同意し、未成年の場合は親権者の同意を得る等の適用のある法域の法律に従い適法に本サービスを利用できる者であることを表明します。
2. 本サービスは本規約に拘束されることに同意している者のみが利用できるものとします。

【サービス】

1. 本サービスでは、ユーザが、SNOW MIKU 2024 その他のイベントで設けられた、当グループが設置するブース内に設置されたカメラの前で音楽に合わせて体を自由に動かすことにより、モーショndataを生成することができます（本規約において、ユーザが参加するイベントを「本イベント」といい、本イベントにおいて生成されたモーショndataを「Piece」

といたします)。

2. ユーザは、ブース内で発行された QR コードをスマートフォン等で読み込むことにより、自らの動きによって生成されたモーションデータ（本規約において「Piece」といいます）を閲覧し、又は共有することができます。

3. ユーザは、当グループが公表するウェブサイト（以下「本ウェブサイト」といいます）上で、自ら又は第三者（当グループ及び他のユーザを含みます）の動きによって生成された Piece をリミックスして、ユーザの動きのみが非実写による人型のデジタル模型で確認できるミュージックビデオ（本規約において「MV」といいます）を制作し、MV を配信等の方法により第三者と共有することができます。また、ユーザは、自ら又は第三者が制作した MV を利用して、新たな MV を制作し、共有することができます。

【サービスの利用】

1. 本サービスの利用にあたっては、本規約に定める方法その他の当グループが指示する利用方法に従った方法でのみ利用することができるものとします。

2. ユーザは、本サービスを、前項の利用方法及び本規約の条件に従う限りにおいて、無償で利用することができます。

3. MV に含まれるコンテンツ（楽曲、テキスト、イラスト、フォントなど。ただし、Piece を除く。以下「各コンテンツ」といいます）の著作権は、各コンテンツの権利者に帰属し、当グループ、ユーザのいずれもこれらの権利を取得するものではありません。したがって、ユーザは、各コンテンツの利用に際しては、各コンテンツの利用条件に従うものとし、当グループは各コンテンツのユーザによる利用につき、一切責任を負いません。

【ユーザによる各コンテンツの使用】

1. ユーザが MV の制作に際して使用する各コンテンツのうち、当該ユーザが本サービスにおける一切の使用につき権利を有するもの又は本サービス上での一切の使用につき権利者より許諾を得たものを、総称して「利用可能コンテンツ」といいます。利用可能コンテンツには、著作権等管理団体が管理又は信託的譲渡を受け管理する楽曲を、当該著作権等管理団体との包括契約により権利処理が完了している動画投稿（共有）サイトやブログサービス等の UGC コンテンツサービス内で利用する場合のコンテンツを含みます。例えば、ユーザ本人による作詞、作曲、演奏、作画等によるもの、権利を有する第三者から本サービス上での一切の使用を明示的に許諾されたものなどが、利用可能コンテンツにあたります。

2. ユーザが使用するコンテンツのうち、利用可能コンテンツ以外のもの、すなわち、第三者による創作が含まれ、本サービス上の利用につき権利者による使用許諾を得ていないものを、「第三者コンテンツ」といいます。

3. ユーザは、本サービスにおいて、第三者コンテンツを含む MV を制作して公開する等の、第三者コンテンツを利用はできません。

【ユーザの遵守事項】

1. ユーザは、本サービスを、その機能の妨害、遮断、中断、フィルタリング、無効化その他機能に影響を与え得る方法で利用することはできないものとします。

2. ユーザは、本サービスを非商用目的に限り利用できるものとします。当グループの事前の書面による承諾なく、商用での利用を行うことはできません。

3. ユーザが法人等複数人により構成される組織である場合は、当該ユーザは第三者コンテンツを含むコンテンツの利用を行うことはできません。

【権利帰属等】

1. ユーザは、本規約において明示的に許諾された権利を除き、本サービスの利用により、ユーザ及び当グループを含む第三者の情報、データその他の知的財産に関するいかなる権利も取得するものではありません。

2. ユーザは、本サービス上又は当該ユーザ以外の第三者（当グループを含む）の情報、データその他の知的財産の全部又は一部を頒布、再配信、公表、サブライセンス、委任又は譲渡することができません。

3. ユーザの動きによって生成された Piece に著作権（著作権法 27 条及び 28 条の権利を含む）その他の権利が発生する場合、当該権利は当グループに帰属し、ユーザはこのことに同意することとします。

【ユーザの同意事項】

1. 当グループは、いつでも、当グループの裁量において、本サービスの全部又は一部の公開・運用の中止ないし停止、本サービスの仕様若しくは運用の変更を行うことができるものとします。

2. 当グループは、ユーザによる本サービスの利用に関連する一切の情報を取得し、当該情報を、学術論文への掲載、実証実験、本サービスの改善又は将来提供するサービスの開発その他当グループの研究開発に有益又は必要な目的で、ユーザの同意なく自由に使用することができるものとします（当グループが指定する第三者による使用許諾を含みます）。当グループは、本サービスへの利用ログ等を、研究開発やシステム改善のために保存利用することがあります。ユーザは、本サービスの利用にあたり、あらかじめこのことに同意します。

3. ユーザは、本サービスにおいて、自らの動きによって生成された Piece 又は自らが制作、

編集して作成された MV が、オープンソースとして公表の上、自由に使用される（例えば、当グループを含む第三者が、Piece をリミックスの上、その内容を動画化・配信等し、二次創作することを含みます）ことに、予め同意します。

4. ユーザは、本サービスの利用アカウントが削除ないし停止された場合又は当グループから特定の行為の中止を求められた場合、遅滞なく、当グループの指示に従い、そのサービスないし媒体から MV その他当グループにより指定された情報を、削除し、その他当グループの指示に従わなければならないものとします。

5. ユーザは、本サービスの利用状況その他に関して当グループが指定する事項について、当グループの請求があるときはいつでも、当グループの指定する方法で報告を行わなければならないものとします。当該報告の内容が真実又は正確でなかった場合には、ユーザは当グループに対し当グループがこれにより被った一切の損害（弁護士費用を含みます）及び損失を賠償又は補償するものとします。

6. 当グループは、ユーザが本規約に違反していると当グループが判断する場合、その他当グループが必要と判断した場合には、予告なく、当該ユーザによる Piece 及び MV の利用を含む本サービスの使用を制限することができるものとします。

【ユーザによる保証】

1. ユーザは、本サービスの利用にあたり、第三者の著作権その他の権利を侵害しないことをここに表明し、保証します。ユーザは、本サービスの利用に関し、ユーザ又は当グループに対し第三者から権利主張がなされた場合には、自己の責任と費用にてこれに対応することとします。当グループはその裁量により、著作権その他の権利を侵害していると判断する MV を含むコンテンツ（以下「MV 等」といいます）を削除または無効化し、反復的な著作権侵害者の利用を予防する権限を有します。

2. 前項に関わらず、当グループは、自らが紛争等の解決にあたるのが合理的に必要と認められる場合においては、前項に定める第三者との紛争等を、自ら解決することができるものとします。この場合、当グループは、ユーザにその一切の損害および合理的な範囲内の費用（弁護士費用を含みます。）を、請求することができるものとします。

【免責事項】

1. 本サービスは研究開発および実証実験の一環として提供されるものであり、当グループは、本サービスの利用に関連してユーザに生じた損害等につき、一切の責任を負わないものとします。

2. 本サービスの利用に関し、ユーザが本規約違反等により第三者に与えた損害については、当該ユーザが自己責任で解決し、当グループに損害を被らせないものとします。

【クレジット】

1. ユーザは、本サービス及び利用の結果を公表する場合には、「TextAlive Groove」の名称を表示することで、当グループの研究成果に依拠して作成されたものである旨を表示することとします。
2. ユーザは、本項に従う場合を除き、当グループの事前の同意なく当グループの名称等の当グループに関連するクレジットを使用することはできません。
3. ユーザは、本サービス及び利用の結果を公表する場合には、本ウェブサイト又はMV等上で既に表示されているクレジットを消去してはならず、MV等に含まれる全ての制作者（作曲者、作詞者、歌唱・演奏者、イラストレーター、アニメ制作者等）のクレジットを適正に表示するものとします。
4. ユーザは、当グループに関連するクレジットを、当グループのイメージを毀損する方法、第三者に対してユーザと当グループが提携関係にあるかのような誤解を与えるような方法、その他の当グループが不適切だと判断する方法で利用することはできないこととします。

【非商用・商用利用】

1. ユーザによる本サービスの利用にあたり、非営利団体が、当グループが認める規模の広告収入のみを得る場合には、非商用利用とみなします。
2. 参考として、以下に掲げる場合には、商用利用とみなします。
 - (1) ユーザが、本サービスを利用したコンテンツ等について第三者から利用料その他の利用の対価を得る場合
 - (2) ユーザが、実費を超過する額の広告収入その他の収入を得る場合
 - (3) 営利団体が、本サービスの利用に関連して利用料・広告収入その他名目を問わず利益を得、又は本サービスを宣伝広報目的にて利用する場合
3. 商用利用は、当グループの事前の書面による承諾なく行えないものとします。商用利用をお考えの場合は（textalive-ml[at]aist.go.jp）までご相談ください。

【禁止事項】

1. ユーザは、本サービスの利用にあたり、以下の行為を行ってはならないものとします。
 - (1) 歌詞、楽曲、動画、イラスト等コンテンツの複製及び本サービス外での一切の利用
 - (2) 本規約で許されない方法での、Piece 又は MV 等の保存及び本サービス外での利用

- (3) 非公開部分へのアクセス・不正な改ざん又は使用
- (4) ネットワークの脆弱性の探索、コピー、スキャン又はテスト
- (5) 本サービスに関連するプログラム等についての逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、その他の方法でのソースコードの解読
- (6) セキュリティ若しくは認証方法の侵害若しくは回避
- (7) 方法の如何を問わず、改ざんされた情報、詐欺的情報若しくは情報源を偽装した情報を送る目的その他不適切又は違法な目的での利用
- (8) コンピューター・ウイルスその他の有害なコンピューター・プログラムを含む情報を送信する行為
- (9) 他のユーザ若しくはネットワークのアクセス妨害若しくは遮断又は他のユーザの利用に支障を与える行為
- (10) 機能の妨害、遮断、中断、フィルタリング又は無効化
- (11) 本サービスから得られたデータの販売、再配信、サブライセンス、委任又は譲渡
- (12) 当グループ、ユーザその他の第三者の知的財産権、肖像権、プライバシーの権利、名誉その他の権利又は利益を侵害する行為（かかる侵害を直接又は間接に惹起する行為を含みます）
- (13) 犯罪行為に関連する行為又は公序良俗に反する行為
- (14) 本サービスの違法又は不当な方法による利用
- (15) MV 等に表示されたライセンス条件に従わないコンテンツの利用
- (16) 本規約に違反する行為
- (17) 前各号に定めるほか、当グループが不適切と判断する方法による利用

2. 当グループは、問題の検知、防止若しくはその対処を行うことができるものとし、当グループが必要と判断した範囲内でユーザの情報についてアクセス、閲覧、保存、管理、及び公開する権利を有するものとします。

【利用制限】

1. 当グループは、ユーザが本規約に違反していると当グループが判断する場合、その他当グループが必要と判断した場合には、予告なく、本サービスへのアクセスを凍結又は制限することがあります。

2. 前項による場合のほか、当グループは、いつでも、当グループの裁量において、予告なく、本サービスの一部若しくは全ての提供を停止し、ユーザによる利用を制限し、又はユーザのフィードバックを削除し、又はユーザの端末から Piece 又は MV 等を非表示化することができるものとします。また、当グループがユーザに対し、本サービスを構成する情報の掲載の中止を求め、又は本サービスの具体的な利用方法の指定をした場合には、ユーザは当グループの当該指示に従うものとします。

【更新の義務】

1. 当グループが提供するプログラムその他のサービスの内容・仕様は更新されることがあります。ユーザは、常に最新の情報をユーザが作成し MV 等に反映するものとします。
2. 当グループは、前項の規定に基づくプログラムその他のサービスの情報更新に基づき、ユーザに直接的又は間接的に発生したあらゆる紛争、損害等について、一切責任を負いません。

【責任の制限】

1. 本サービスを介して使用された若しくは本サービスを通じて取得した情報やコンテンツの使用又はこれらへの依拠は、ユーザの自己責任において行うものとします。当グループは、ユーザが本サービスの利用により取得したいかなる情報、コンテンツや解析内容について、その合法性、正確性、又は信頼性を表明又は保証するものではなく、これらについて一切の責任を負いません。ユーザは、本サービスの利用により、違法、不正確、又は不適切なコンテンツに接する機会があることを理解しているものとし、当グループに対していかなる責任を追及することもできないことに同意します。
2. ユーザは、本サービスを自己責任に基づき利用するものとします。ユーザの本サービスの利用によって発生する一切の損害について、当グループは賠償の責めを負いません。本規約に基づき当グループがユーザによる本サービスの利用を停止又は制限した場合も同様とします。
3. 当グループは、ユーザが送受信した情報を運営上一定期間保存していた場合であっても、かかる情報を保存する義務を負うものではなく、いつでもこれらの情報を削除できるものとします。なお、当グループは本条に基づき当グループが行った措置に基づきユーザに生じた損害について一切の責任を負いません。

【損害賠償等】

1. ユーザは、ユーザによる本規約違反又は本サービスの利用により当グループに損害（弁護士費用を含みます）を与えた場合、ユーザの責任と費用でこれを賠償するものとします。

2. ユーザは、本サービスの利用に関連して生じた第三者からのクレーム、問い合わせ、請求等につき、ユーザの責任と費用でこれに対処するものとし、当グループは一切の責任を負わないものとします。万一、当グループが自己の費用でこれに対処した場合には、ユーザは当グループに生じた損害（弁護士費用を含みます）につき補償するものとします。

3. ユーザは、ユーザ自らのコンテンツ等が著作権を侵害する方法でコピーされたと判断される場合、当グループの指定する窓口（textalive-ml [at] aist.go.jp）まで報告しその指示に従うものとします。当グループは、当該不適切な利用に対し、本サービスの利用停止等の措置を講じることがありますが、当該不適切な利用について一切の責任を負わないものとします。

【反社会的勢力の排除】

1. ユーザは、現在、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ又は特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下総称して「暴力団員等」といいます）に該当しないこと、及び次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ将来にわたっても該当しないことを確約するものとします。

(1) 暴力団員等が経営を支配又は実質的に関与していると認められる団体その他これらに準ずる者と関係を有すること

(2) 自己若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること

(3) 暴力団員等に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること

2. ユーザは、自ら又は第三者を利用して次の各号の一にでも該当する行為を行わないことを確約するものとします。

(1) 暴力的な要求行為

(2) 法的な責任を超えた不当な要求行為

(3) 取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為

(4) 風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて相手方の信用を毀損し、又は相手方の業務を妨害する行為

(5) その他前各号に準ずる行為

【準拠法・裁判管轄】

本規約その他ユーザと当グループの合意事項に関連して紛争が生じた場合には、日本法を準拠法とし、東京地方裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とします。

2024年2月10日作成